

第1号ステーションの10回記念

1998年に第1号ピティナ・ピアノステップステーションとして誕生した巣鴨ステーションが、2003年3月21日春分の日、記念すべき第10回目のステップ開催を成し遂げた。

人々が行き交う交差点＝ステーションとして、これまでのべ1271名の人々が、このステーションで出会い、互いの演奏を耳に刻んできた。全国62までに拡大したステーション組織の先駆けである巣鴨ステーションの軌跡と心意気を、代表の上総治子先生とスタッフの先生方に語っていただいた。

世の中に喜びを表現できること

「1997年に日本ではじめてのピアノステップをお手伝いした時、パスポートをもらった大人の参加者が全身で感動を表していたのです。40～50代を過ぎてから、このように素敵に喜びを表すことができるなんて、これはすごいと思いました。勇気をもって最初に参加された方々のおかげです。」と第1号ステーション設立の決意について、代表の上総治子先生は歯切れよく語る。「やるならばきちんとやる。心置きなくステーション活動に力を注げるために、『他の支部に所属していないこと』を条件に仲間選びを慎重に行いました。」こうして1人づつ声をかけて立ち上げたステーションの活動は、10回のステップ開催を経て今年で6年目に突入する。

ここは楽しい場所です

ステーション活動を通して得たものは？という問いに、どのスタッフも「仲間が増えたこと」を最初にあげる。

「みんなで作っているという実感があります。裏方の仕事は大変だけれど、シール一つはるのにも、参加者1人にとって大切なパスポートだと思うと手を抜くことはできません。一つ一つの仕事も参加者にベストの状態演奏して欲しいと願っ



1日で154名が参加。ステップ実行委員長の戸沢睦子先生自らがアドバイザーとしてお祝いに駆けつけた。

ての作業となります。スタッフが力を合わせることで目に見えない絆が深まっていくことを毎回実感しています。」(六島礼子先生)

「たとえ直接演奏を聞かなくても必ずどこかに参加者へ還元されたという手ごたえを感じることができます。自分のステーションだけでなく、全体を見たときのステップの広がり、ピアノ人口の裾野の広がりをうれしく思います。」(宮本聖子先生)

「毎回小さなことから大きなことまで色々な反省が生まれますが、スタッフの先生方と一緒にどうすればうまくいくか考えて解決していきます。いつまでも続いてほしいです。」(指田まち子先生)

「ここで様々な演奏、生徒に出会いました。相手に与える印象や同じ目線に立つことの大切さを学んでいます。ここは楽しい場所です。」(大見幸恵先生)

この日は1日で154名の参加者全員の演奏を運営するという、息つく暇もないほど過密なスケジュールの中でインタビューであったが、返ってくる言葉はどれも、仕事に対する誇りに満ちていた。

「『三者鼎立』という言葉の通り、ものごとは、それに関わる全ての人が満足しなければ長続きしません。ステップは、誰も悲しい思いをしない、誇りを持てる活動です」という上総先生の信条が、



会場設営の仕上げに花を飾る。よい演奏をしてくださいね!



アドバイザーへ渡すメッセージ用紙とプログラムも準備完了。



会場に入ると、まずは受付の笑顔でご対面



舞台の裏では心をこめてパスポートを作っています



毎年秋にはステーション独自の企画を同時開催しています。(写真は2001年10月28日開催の音楽クイズ企画)



10回記念の紅白饅頭をプレゼントしました

ステーション組織の隅々に息づいている。

組織作りの秘訣

人の輪の育成、参加者の確保、当日の運営等、ステーション代表者としての責任は広範に渡る。その秘訣を上総先生はこう語る。

「人の心の移り変わり、全体の進行を的確に読み取ること。人に頼む前に自分でなんでもできるようにしておくこと。自分がやっていることの価値を他者へきちんと伝えること。そして何より、顔色一つ変えずにゴミを拾いつづけてくれる仲間がそばにいること。」

どんな大きな仕事も、全ては小さなことの積み重ねである。「玄関でかならず見送りなさい。そして必ず迎えなさい。これが最後かもしれないから。」という幼少からの父の言葉が、一分一秒を真剣に生きる上総先生の土台になっている。

人間のぬくもりを感じる教育を

長年のピアノ指導者経験を通したどり着く結論は「音楽は人間に必要なもの」という至って素朴なものだという。「人間のぬくもりをどこかに感じることでできる音楽教育。それがこれからもずっと目指すところです。」と穏やかに話を締めくくる。

ステップが始まる朝には、入り口で一人お祈り

をする。「今日一日、誰も怪我することなく、皆が家まで無事に帰りつきますように・・・」

ステップ会場に入った瞬間に感じる人のぬくもり、それこそが第1号ステーションから後輩ステーションへと脈々と受け継がれている、ステップの大きな財産なのかもしれない。

(取材・文 松本倫子)



ステップの日は全てがライブ進行!さて次は何がおこるのかしら!

上総 治子 Haruko Kazusa

Profile

東京芸術大学音楽学部別科ピアノ科修了、元東京コンセルヴァトアール尚美非常勤講師、(社)全日本ピアノ指導者協会(ヒティナ)評議員、バスティン研究会講師、音楽教材研究会主幹事、巣鴨ステーション代表。日本におけるバスティンメソッドの第一人者として講座を開催する一方、ピアノライフ委員長として実年ピアノ指導の発展にも尽力。

